

鳥羽商船高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)	授業科目	商船学演習		
科目基礎情報							
科目番号	0013		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	商船学科		対象学年	2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	船舶安全学概論、訓練手引書						
担当教員	小島 智恵, 今井 康之						
到達目標							
1. 船舶職員として、消火救命設備の説明ができ、発生時に適切な措置方法が判別できること 2. 航海や機関に関することを学び、船員の労働環境や災害を把握し、安全な労働環境を推測できること							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1		非常事態が発生した場合、適切な措置方法が説明できる	消火・救命設備の説明ができる	消火・救命設備の説明ができない			
評価項目2		安全な労働環境を推測できる	船員の労働環境や災害について説明できる	労働環境や災害を説明できない			
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	船舶に乗り組む職員として、消火救命設備等について学ぶ。また、船員災害の現状について概要を学ぶ。						
授業の進め方・方法	初めて聞く言葉が多くあるが、よく復習を行うこと。授業後半は、意見や考え、感想をまとめてレポート提出することがある。						
注意点	専門用語が多くなるので、必ず復習を行うこと。レポートの出題があれば、必ず提出すること。演習時は意欲的な態度で取り組むこと。						
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	火災の性質、消火剤、消火設備について	火災の性質を推測できること 消火剤について説明できること 消火設備について、概要及び使用方法が説明できること			
		2週	火災探知装置及び火災警報装置、防護用具、測定器等について	火災探知装置の概要、火災警報装置の概要が説明できること			
		3週	防火組織及び操練、消火作業について	船内の防火組織、操練を説明できること 船内消火作業の注意事項を推測できること			
		4週	船体放棄の操練の計画について	衝突、火災、沈没等発生する可能性のある非常事態を推測できること			
		5週	海上における遭難信号への対応、視覚信号による情報の送信と受信、生存技術の原則	国際航空海上捜索救助マニュアル、国際信号書を使用することができること。また操練の重要性を説明できること			
		6週	救命設備及び艀装品並びにそれらの取り扱い	船舶に積載されている救命設備の種類を説明できること			
		7週	救出について	救命いかだの集結並びに海上の存在者の救助のための救助艇及び救助艇の使用や食料及び水の分配を説明できること			
		8週	生存のための医療知識について	応急医療、体温低下の影響及び防止方法、防護のための衣服（イマージョン・スーツ）の役割を説明できること			
	4thQ	9週	機関に関すること（1）	船舶に使用している燃料油について説明できること			
		10週	機関に関すること（2）	海上における流出油について、対処法を推測できること			
		11週	資源管理に関すること	航海のBRMと機関のBRMについて、概略を説明できること			
		12週	船舶職員として（1）	船員災害の概略を説明できること ヒヤリハット、船上教育などを説明できること			
		13週	船舶職員として（2）	船舶における安全管理マニュアルの活用を学び、マニュアルに基づいて演習を行えること			
		14週	船舶職員として（3）	船上で起きた、事故や災害事例を基に災害原因を見つけることができること			
		15週	期末試験の解説	期末試験の解説			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計	
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	10	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0